

## 2025年度 町田市観光まちづくり推進委員会 会議録

○開催日時 2026年2月20日（金曜日）14時00分～16時10分

○場 所 町田市庁舎 2階 会議室2-4

○出席者 出席委員： 西田司委員長、安達廣美副委員長、川原晋委員、  
富田莉莉委員、齋藤大典委員、根岸剛委員、安本  
達式委員、高梨光之委員

欠席委員： 和田圭司委員

傍聴者： なし

事務局： 経済観光部長、観光まちづくり課長  
他事務局3名

○資 料

- 1 町田市観光まちづくり推進委員会設置要綱
- 2 町田市観光まちづくり推進委員会委員名簿
- 3 町田市観光まちづくりリーディングプロジェクト 2022～ウィズコロナ戦略～
- 4 新たなリーディングプロジェクトの策定について
- 5 新たなリーディングプロジェクト策定に係る事前調査の報告
- 6 2025年度観光まちづくりリーディングプロジェクトの進捗状況について

○次 第

### 1 挨拶

経済観光部長・塩澤直崇より挨拶

### 2 町田市観光まちづくり推進委員会について

- ・委員会概要説明及び委員紹介
- ・委員長、副委員長の選任

### 3 議題

- (1) 観光まちづくりリーディングプロジェクトの進捗状況について  
資料3及び資料6に基づき、事務局から項目別に説明。

## 委員からの主な質問・意見等

### 【1-1 「町田薬師池公園四季彩の杜」を町田のシンボルに】

・これまでライトアップやスタンプラリーなどをはじめとする様々なイベントを実施してきたが、反響の大きかったものや、イベントを実施する中で課題に感じていることはあるか。

⇒（委員回答）

・春や秋のイベント参加者の満足度は高かった。また、「四季彩の杜を知らなかった」と答える方も多い一方で、無料でライトアップが鑑賞できてありがたい、などの好意的な意見があった。

秋のイベントでは JAF と連携してキッチンカーを巡るデジタルラリーを実施。各協力店では四季彩の杜にまつわる食材を利用した商品を販売。参加者は、町田市民が約3割を占めるが、その他埼玉県や海老名市などの車で1時間程度かかるような地域の参加もあった。

・指標である来園者数は、現時点で目標値は超えているが、「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画～ver.2～」で掲げている目標値は、さらに高い200万人となっている。今後取り入れるべき新たな視点・参考にできそうな他自治体の例はあるか。

⇒（委員回答）

・来訪者は増加している。町田市の観光はたくさんの人を呼ぶことよりも、「町田のファンづくり」や市民の満足度向上などを目指している。今後のさらなる展開として、イベント前のプロモーションはもちろんだが、イベント実施後に戦略的にプロモーションしていくとよいのではないか。

・あるものを活かして集客できており、毎年ワンポイントを追加して実施することで、リピートさせる効果につながっているのではないか。

### 【1-2 花とみどりの魅力を活かした事業の展開】

・2027年3月に横浜市で GREEN×EXPO 2027 が開催される。国際的な花と緑のイベント開催となるが、何か連携したり、期待していることはあるか。

⇒（委員回答）

・イベント開催にあたり、観光コンベンション協会としても、今から準備を考えている。南町田グランベリーパーク駅から会場までの直行バスが運行するので、市の南エリアの観光マップの更新を予定している。

さらに、南町田駅での観光案内の実施や、中心市街地や薬師池に人を呼びこむことができないかを考えている。

・観光コンベンション協会が主催するツアーの参加者の属性は。

⇒（委員回答）

・町田市民が中心で、年齢層は高い。今後は障がいのある方も気軽に参加できる工夫をしていく必要がある。

・GREEN×EXPO 2027の展示は、市の施設と比較するとデザイン性が高いものが多いと予想される。この機会を活かして、花に関連する施設のデザイン性を高めたり、障がいのある方や学生などにクリエイティブな作品を作ってもらいなどの取り組みができるとういのではないかと。

・現時点で指標の回数はクリアできている。今後は、参加者の声を聴取し、満足度などを指標に設定することも考えられるのではないかと。

アンケートの実施について、現時点でどのようになっているか。

⇒（事務局回答）

現時点で、アンケートなどは各イベントや施設で個別に実施し、満足度を聴取している。四季彩の杜のイベントは、満足度8割程度と、高い回答を得ている。また、四季彩の杜で実施した夏のイベントなどは、若いファミリー層の回答が多かった。

・アンケートの結果について、ターゲット層を設定し、ターゲットとした層の反応を検証するとよいのではないかと。

### 【2-1 人や情報が集まる観光ネットワークの創出】

・都心に集中する海外の方に町田に来ていただき、「町田のファン」になってもらうためには、どのようなイベントや工夫があるか。

⇒（委員回答）

・町田市や相模原市などで、モルックが盛んになっている印象がある。市内在住外国人や留学生、国際交流センターの利用者などがモルック大会を実施するなど、近隣の外国人が集まる機会となっている。訪日外国人だけでなく、地域に住む方の社会参画等の支援にも取り組んでいきたい。

### 【2-2 「まちなか」と「おくまち」の連携の強化】

・リニア新幹線の開通により橋本駅に新駅ができる予定など、人流をはじめ相原周辺において大きな変化があることが予想される。現時点で感じられる変化や期待に感じていることはあるか。

⇒（委員回答）

・相原地区は、竹灯籠など様々な取組を行っている。

市内に10地区ある各協議会も、それぞれ試行錯誤しながら様々な取組を行っている（例：オープンガーデン、おやGAOフェスなど）が、担い手不足が深刻になっている。観光の取組や新たなイベントを実施するために、市や観光コンベンション協会と各協議会が連携できるとよいと考えている。

・町田市の観光を考えた際に、「まちなか」と「おくまち」という言葉は良く、「おくまち」については、フットパスや里山にとどまらず、若年層にも興味を持ってもらえるように解像度を上げていくと、なおよい。

また、イベントの内容によって「おくまち」や「まちなか」というラベル付けができると、ブランディングにつながるのではないか。（例：青梅ブルー）

### 【3-1 ウィズコロナのシティセールスの推進】

・FC町田ゼルビア（以下、「ゼルビア」）の試合観戦のために遠方から町田市に訪れる方をターゲットに、市内の店舗と連携してイベントを行うなど、観光施策との連携の可能性はあるか。

⇒（委員回答）

・商工会議所はコンサルティング会社と連携して、ゼルビアによる経済効果を測る取組を開始したので、今後は取組結果を共有していく。

・ゼルビアのアウェーゲームでブース出展し、観光案内や抽選会を行った。アンケートの「町田に行くなら〇〇に行きたい」という声を受け、ホームゲーム開催時にはその場所をツアー行程に含めるなどした。

一方で、アウェーチームに限定して情報発信を行うと、試合数やターゲットに限られてしまう。チームを超えて選手にファンがついている場合もあるので、その視点で取り組むのはどうか。

・全国さまざまな自治体で、アニメ作品等を活用した取り組みが行われているが、先進的な自治体や効果的と思われる取り組みはあるか。

⇒（委員回答）

・デジタルコンテンツを活用したイベントの効果を検証すべきである。

さらに次のステップとして、非常時を迎えた中でも対応できるような工夫を加えることも必要になってくる。

### 【3-2 季節感をアピールした情報発信】

・小田急電鉄で情報発信を行う際に、特に効果的であると考えている取り組みはどのようなものか。

⇒（委員回答）

- ・SNSの活用は、「誰に伝えたいのか」を考えて実施するとよいのではないか。（例：ロマンスカーを若年層に使ってもらいたい→TikTokを利用）
- ・新宿にインバウンドによる来訪者が多くいるので、小田急線を利用し沿線の各地に行ってもらえないか、という戦略を考えている。
- ・ウォーキングのイベントを開催すると参加者が多い傾向があるため、うまく発信できれば効果的ではないか。

### 【3-3 ロケーションの支援】

・「映画やアニメのファン」から「町田のファン」に、というのは戦略的に実施しないと難しい。また、アニメに関するイベントを「地域のイベント」としていくには、仕掛けが必要である。

・景色の良さが関係者に伝わらないと、ロケ地としては利用されにくいので、様々な方法で発信するとよいのではないか。

### (2) 新たなリーディングプロジェクトの策定について

資料4及び資料5に基づき、国や都、町田市の観光動向等について説明。

新たなリーディングプロジェクトのコンセプトやターゲットについて意見をいただいた。

### 【ご意見】

・国や都の施策の方向性と、町田市は少し方向性が異なるのではないか。インバウンド等の不安定な対象よりも留学生など、実際に町田市にいる・来ている人を確実に呼びこむという方向性はどうか。

・ゼルビアファンなどの「来てくれるひと」をいかに「町田のファン」にしていくなか、というのが方向性になるのではないか。

・多くの人々が来訪するようになっているので、強い安心安全な観光を進めていく必要があるのではないか。

・試合があるときなど、住民満足度を聴取するなどして効果を図っていくとよいのではないか。

・人流データを測定する場合は、範囲、季節別、時間帯別など細かく調査する方

がよい。

・東京都観光実態調査の測定場所に町田駅周辺(=まちなか)のデータがない。また、まちなかの魅力のプロモーションについてあまり実施されていない印象がある。都会と自然、どちらもあるのが町田市の魅力のため、まちなかにもっと発信すべきコンテンツがあるのではないか。

・ゼルビアやアニメのファンを「町田のファン」にする、というのが重要な視点だと考える。

・里山などの自然の良さを見せつつ、町田市の魅力である「都会と自然が両方ある」という良さを出していくのがよいのではないか。

・都内の区部に住む方は、住まいの近くに里山のような自然はなく、子育て世代はそういった点も重視している。都内の区部に住む方をターゲットに「自分たちの庭／里山」としてすぐに行ける場所が町田市にある、という視点で発信できるのではないか。

・観光は、町田市全体に資するもの、として考える段階にあるのではないか。町田市の魅力だけでなく課題とも言えるものに対して、観光が伴走したり、連携して取り組むという視点を持つことも重要である。

#### 4 今後の観光まちづくり推進委員会について 事務局から説明

#### 5 その他

委員からの連絡事項は特になし

以 上